



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ
東北こそだてレター (被災地の今…)

2015/04/21 配信 vol.32

～ 津波で母を失い、気仙沼から災禍を逃れて東京に来た方の体験談から、支援が届きにくい状況にあるということ ～

◆ **支援実績** (2014/03/31 現在)

<支援母子数>

- ・2015年3月計 291組
- ・プロジェクト開始より累計 20,234組 (2012/7～2015/3)

<活動場所>

- ・岩手 (大船渡、陸前高田、花巻、釜石、大槌、遠野、宮古、久慈)
- ・宮城 (石巻、東松島、女川、気仙沼、亶理、名取、仙台)
- ・福島 (いわき、相馬、南相馬)
- ・福島 (伊達、二本松、須賀川、白河、郡山、猪苗代町)
- ・新潟 (長岡)
- ・埼玉 (川越)・神奈川 (横浜)・東京 (中野)

<活動内容>

育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビ体操／ママのリフレッシュ体操／親子ピクス／仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。一般社団法人ジェスパールです。

3月末に一気に温かくなったと思ったら、4月に入ってしばらくの間は寒さが戻ってきて長期間居座る、そして雨ばかり・・・という難しい天候が続きましたね。東京ではせっかく咲いた桜が寒そうで気の毒な気がしました。皆様は体調を崩されたりなさらなかったでしょうか。

さて、今回は、これまでこのメルマガで触れている、いわて助産師による復興支援まんまるの現在の活動状況をご覧ください。母子支援のために活動を発展させ続けるまんまるをぜひ応援いただきたいと思います。

また、香港からのかわいらしいボランティアさんの様子もお楽しみください。被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ 「いわて助産師による復興支援まんまる」活動範囲を広げる
<http://manmaru.org/> (ジェスパール代表 宗祥子)

まんまるの前身は2005年から北上市周辺で開催していた子育てサロンです。

2011年の震災を契機に、それまで内陸部で行っていたママサロン活動を被災沿岸部で開催し、沿岸部で支援の手が届きにくい、被災に見舞われた子育て中のお母さんたちの支援へとつなげてきました。

◆◇まんまるの活動と岩手の状況

まんまるは助産師3名、栄養士1名の計4名が中心となって運営・活動し、またこれまでの連携の積み重ねによって、現地のママや助産師とのつながりに支えられて活動しています。助産師が必ず参加し、悩みや疑問に対して専門的なアドバイスをすることで、一般的な子育てサークルとは異なる活動になっています。母乳や発育など、専門的な考えに基づき判断します。

岩手では産科医不足から、分娩を扱う病院・クリニックが減少し、出産場所の集中化が起こっています。忙しく短時間の診察の間では、十分な相談はできず、母親たちは自信を持っていないまま、出産・子育てに向き合わなければならないのが現状です。助産院や開業助産師も少ないため、地域での支援も受けにくい状況です。そのような状況の中、まんまるサロンは助産師とゆっくり、緊張せず気軽に話せる場となっています。

この活動を側面から支えたのが、ジェスパールです。

ジェスパールが行っている支援は、このママサロンにかかわる助産師たちの活動費、移動のための交通費にかかる実費、昨年READYFOR?で行った沿岸部まで人や物を運ぶ大型の車を買うための資金集め、更にまんまるの携帯サイトや上記活動サイトの作製(ジェスパールの広報担当の桑原氏によるボランティア価格での作成)等、支援してきています。



◆◇活動範囲の広がり

まんまるの活動は、震災から3年が経ち、支援の縮小・終了等で、継続の見通しが立たなくなってきていました。そこで、昨年度からは自ら財源確保に動き昨年度は独立行政法人福祉医療機構(通称WAM)からの助成を得ることができました。

それまではサロン活動中心だった活動の幅を広げ、母親たちの健康増進にも力を入れることができました。また遠方から講師を呼び、講座等を開催し、岩手の方たちの役に立つ情報を提供しました。

サロン活動の中でも必要性を感じていた産後ケアについても取り組むことができ、7か所の産後ケア施設の視察・研修に行き、先月3月23日(日)にその報告会を北上市でおこないました。

そこに当団体の代表 宗祥子が招かれ「産後ケアの必要性和現状について」という基調講演を行いました。年度末の時期でしたが、産婦人科医、助産師、保健師、岩手県議会議員、花巻市議会議員、夫婦での参加が3組、子連れの母親の参加もあり、25組の参加がありました。

宗は、現在は産後ドゥーラ(産後の母親の心身、家事・子育てを支え寄り添う女性)の育成にも力を入れて活動しています。講演では、産後ケアの基本や現代の問題点などを、経験談を交えてわかりやすく説明しました。

その中で「育児は本能ではなく、学ぶもの。現代の母親は子どもを抱いた経験もないまま母親になり、まわりにも見本がない」「陣痛中、お産後は心が粘膜のように弱くなり、傷つきやすい」「実母や姑はストレートな言葉が多く、かえって母親の負担になることもある」などお産に携わる医療者にも関心のある話を行いました。また、現代の問題として、子育てをとりまく環境の違いをあげ、お産した母親が十分に休めない社会的背景も指摘しました。

次に副代表・八重樫氏と代表・佐藤氏が、福島・関東視察研修について報告し、この視察を通して見えてきた問題点や、岩手における課題点として、「お金がある人だけが利用できる産後ケアにしない」「利用者が利用しやすい価格設定やケア内容を考えていくとともに、産後ケアだけでは経営するのは難しい中、どのような形で産後ケアを維持していけるかを経営的な側面も考えていく」ことを挙げ、協力を呼びかけました。

また、ケアの受け手である母親たちの声も集め、行政に伝えていくことと、このようなケアがあること自体を広く伝えていきたいと今後の展望が話されました。

参加者から寄せられた意見では「まんまるが色々な所に積極的に足を運んで地域の方に情報を提供しているのが素晴らしい」「日頃の活動が素晴らしい」などの感想が寄せられ、多くの方に(まんまるの)活動の実態を知らせる良い機会になりました。

※本文章は、平成26年度 独立行政法人福祉医療機構 保健福祉振興助成事業任意団体・「いわて助産師による復興支援まんまる」活動報告書を基に作成させていただきました。



◆ 香港のサポートグループからかわいいボランティアさんが東京中野区の都営住宅に (ジェスペール代表 宗祥子) http://tohokumama.org/activity_report/saginomiya/#jespere_20150406

4月6日、香港からかわいいボランティアさんが中野区にある都営住宅の子供会に来てくださいました。

◆◇香港ボランティアグループの方々

来てくださったのは香港のボランティアグループのメンバーのお嬢さん方3人です。15歳の方がお二人と12歳の方お一人、計3人のかわいいお嬢さんたちがご参加くださいました。

香港で育っている方々ですから自分たちの言語は英語です。でもお母さんが日本人であったり、お一人は日本での生活が6年ということで、みんな日本語がとても上手でした。

このグループは毎年香港でバザーを行い、集まったお金を私たちジェスペールに寄付して下さっています。



グループの方々は何らかの形で日本にご縁があり、この震災の被害にとても心を痛めており、海外から少しでも役に立ちたいと活動を継続してくださっています。

今回そのグループの数人が日本にビジネスの為に来っていますが、そのお嬢さんたちが、このママサロンに参加し小さいお子さんを遊ばせるボランティアに来てくださいました。



◆◇当日の様子

中野区鷺宮にある都営住宅は、東北地方や福島の前災地域から避難してきているご家族が数多く住んでいらっしゃいます。自治会長の関根さんが、避難してきたご家族の方々を陰になり日向になりサポートして下さっています。

4月6日は入学入園のお子さんたちのお祝いの会でした。赤ちゃんや幼児も集まり楽しい会になりました。この日は入学式日和のとても暖かい日でした。入学式や入園式を終えたお子さんやそのお母さん達、とその小さなご兄弟が集まりました。

グループからご寄附いただいた一部をお嬢さんたちから渡していただきました。また、ボランティアさんたちは子どもたちを遊ばせるのがとても上手で、小さな子どもたちも大はしゃぎでした。

自治会長の関根さんから話される、被災当時やっとの思いでこの都営住宅にたどり着いた津波の被害に合ったご家族や、福島の原発の避難区域から見た方々の当時の様子を熱心に聞き入っていました。



またここに住む避難地域から来た方々は、現在やっど平穏を取り戻してはいますが、多くの方が非正規雇用であったり、周りに親族がいないために子育てをサポートする方がいないため、小さなお子さんを抱えたお母さんたちが苦勞しています。このお母さんたちを女性の自治会長さんならではの心遣いでお世話されている様子を直に聞くことで、東日本大震災の爪痕の深さを感じてくださった様子です。

◆◇ジェスペールを支援して下さる方々の層の厚さと幅広さに感謝

世界の至るところからジェスペールを応援して下さっている方があります。ジェスペールのメンバーも、ボランティアさんのご参加にとても励まされました。ロセッターさんを中心にした、香港のお母様方、お嬢さま方、ありがとうございました。

◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation/>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスペールメンバーの力になります。ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



発行者： 一般社団法人ジェスペール

公式ホームページ： <http://tohokumama.org/>

Twitter: <https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先： info@tohokumama.org

Facebook: <http://www.facebook.com/tohokumama>